

# 災害リスクの主観的認識が都市均衡に与える影響

香川 涼亮 (筑波大学)

村山 透 (筑波大学)

## 要旨

都市経済学の単一中心都市モデルの枠組みにおいて、家計の災害リスクに対する「楽観度」を表す外生変数に着目して都市の均衡状態を分析した。比較静学分析の結果、楽観度が上昇するにつれて、均衡期待効用水準が上昇する結果となった。しかし同時に危険地区に居住する家計が増加し、防災上の観点からは楽観的であることが望ましいとは一概には言えない。また公示地価に関するパネルデータを構築することにより、リスク公表が地価に与える影響を分析した。都市住民の災害に対する主観的なリスク認知度が、客観的な罹災確率を上回る場合、ハザードマップ公表は、予想浸水深の高さに関わらず、地価に概ね正の効果をもたらすことがわかった。住居地域、商業地域において、予想浸水深の高い地点では時間経過にともなう公表効果の変化は小さく、公表後速やかにリスク認知が進んだとみられる。

**Key Words:** *estimation of risk, flood risk, hazard map, land prices, monocentric city, panel data*

最新情報は筑波大学都市政策科学研究室 Web サイト  
<http://sp.sk.tsukuba.ac.jp/> にて掲載します。

